

第 16 号

発行

小松同窓会本部

〒923-8646

小松市丸の内町二ノ丸15

石川県立小松高等学校内

同窓会報編集委員会

印刷 北勝印刷株式会社



小松同窓会会報

教養の真のあらわれは、その人の「はにかみ」にある

亀井勝一郎

ひとつの生き方

校長 瀬川幸三

昭和三十年四月、希望に胸が膨らむというより非常に不安な気持ちで小松高校に入学しました。というのは、人一倍運動神経が鈍いことを自他ともに認めていますので、「体育」の授業のことを考えると憂鬱になるのです。私は、小、中学の時、「体育」は、通知簿がいつも「一」ですので学校にとってのメイン・イベントである運動会が雨で中止になってくれないかなあといつも願ったものです。しかし、神や仏は、無慈悲にも雨を降らせてくれませんでした。不謹慎なことを考えている者に味方するはずがないのです。

中学三年の二期期になりますといろいろと高校の準備をします。今江町から徒歩で通学するというわけにはいきませんので、人目の少ない夜間に中秋の名月を頼りに自転車の練習をしました。でもそううまくいきません。あちこちに擦り傷をつくりながら星を眺めたものです。

不安な気持ちがすぐ現実のものになりました。入学当時の体育の担当、なぜかいつも基本的なことを教えるのに熱心な方で、百m計測、走り幅跳び、マット運動、跳び箱、バレーボールのパス練習と続きます。どれも運動神経の鈍さがすぐ出てしまうごまかしのない種目ばかりでした。評価は、もちろん「一」です。から運動部には、縁がないはずですが、な

ぜか柔道部に入部してしまいました。一日目が、見学、二日目が、相手なしの受け身の練習、三日目が、投げられての受け身練習。やはり続くはずがありません。四日目にキャプテンに退部を申し入れますと快く了承していただけました。文字通りの三日坊主です。このようにして暗い、いじけた高校生活がはじまったのです。

それから四十一年後の平成九年十一月九日(日)、午前五時兵庫の須磨公園をヘッドランプを頼りに宝塚をめざし歩き始めました。前年に引き続きの「六甲全山縦走大会」のスタートです。いくつもピークを上り下りする全山、七十km強のコースですので平地と違った肉体的負担があります。が、野性のイノシシも応援してくれそうです、岩場のスリルも味わえます。また、瀬戸内海がいろいろ姿を変え歓迎してくれますので、ハードなコースですがまた来年という気にさせてくれる楽しい大会です。

六甲山中を歩きながらふと考えました。もし、私が、小・中・高時代、並の人間だったならこのような「歩き」の楽しさを味えたであろうかということ。かつては、「フルマソン」という楽しみの経験させてもらいました。おそらく普通の運動神経だったならこういうことを経験せずに過ごしたことでしょう。運動神経が鈍いという大きな「弱点」があったらばこそと思うわけです。私達教師は、生徒に「長所を探し、伸ばしなさい」という指導をします。なる

ほど他人にない長所があればこれを伸ばすことにしたことはないと思います。しかし、長所を書きなさいというと、途端に寂しそうな顔をする生徒もいます。

ところで長野オリンピックで活躍した清水宏保選手は身長百六十一cm、スピードを競うスケート競技の選手として不利であることは間違いないはず。ところが彼は、むしろ不利な条件を巧みに生かして五百mに優勝しました。

また、山梨県の農家は、農作物の栽培に不向きな斜面を巧みに利用し、ブドウ農園を行っていませんし、島根県の山間部では、斜面で野シバや笹を好んで食べるスイス産の牛を飼っていました。

昆虫の中にも欠点をむしろ利用しているものもいると聞きました。ウンカの仲間昆虫だそう。自分を護るために周囲の木や草の肌と似た、目立たない肌色の多い中においてこの昆虫は、敵が近づくと派手な模様をいっそう派手に振る舞うそうです。円い大きな模様です。鳥は睨まれていると錯覚するのです。

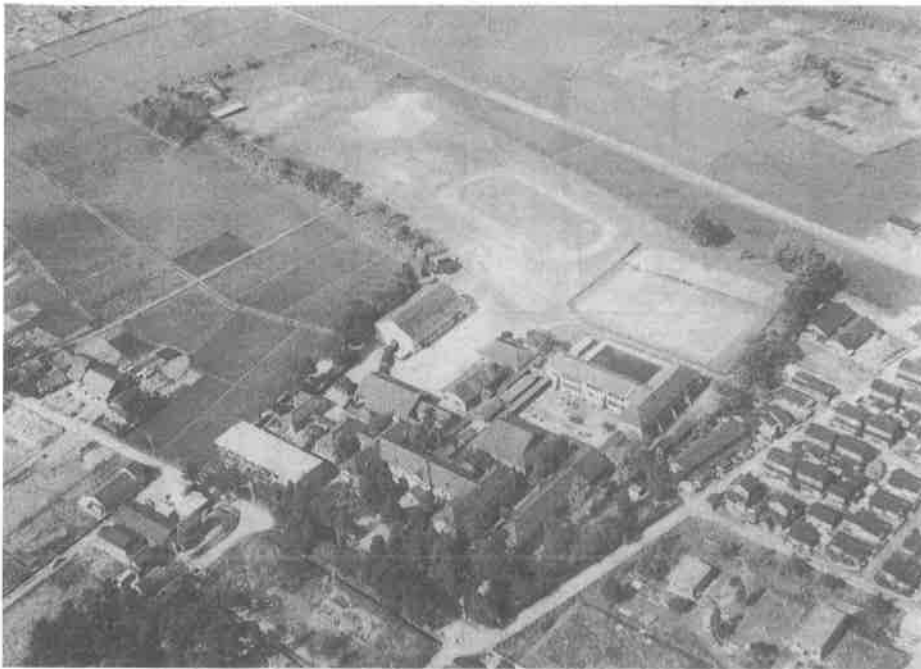
人には、いろいろな生き方があります。長所を生かし、のびのび、おおらかに生きることができればいいのですが私のような型の人間もいます。「弱点」ばかりが気になるタイプです。このような時に、発想を転換し、開き直り、したたかに、厚かましく、「弱点」を逆手にとってアピールするという生き方をすれば人生も楽しくなるとおもいますがいかがでしょうか。(高校10回)

校舎改築点描

古曾部三郎

昭和三十六年(一九六一年)、小松航空隊が発足し、ジェット機の騒音のため、付近の学校が防音校舎に改築されることになり、本校も改築される

こととなった。本校の校舎は明治三十二年(一八九九年)に建造された。その後、講堂、理化室、階段教室、実験室が建築されたものである。改築前の小松高校の全貌は次の写真の通りである。



新校舎が完成すると、旧校舎の売却の広告が校門前に出された。



昭和三十八年(一九六三年)、この年の二月、三八豪雪といわれ、本館と生物研究室の渡り廊下が豪雪のため、写真の如き惨状を呈した。



階段教室

高橋 君子

近くの芦城公園を散歩していると新緑の間から記念に一部残されている薄ピンク色の旧校舎がみえる。思えば私の青春時代のことです。

女学校を卒業し校長先生の推薦で中学校(小松高校)の勤務でした。理化研究室、階段教室、準備室、実験室、生物室の五室が私のお手伝いさせて頂いた最初の勤めでした。あれから五十年の歳月が過ぎましたのに鮮明に思い出が次々と走馬燈のようによみがえります。

若い時のことは忘れないものと先人は言うけれど今更ながら本当だと思えます。

$Zn + H_2SO_4 \rightarrow ZnSO_4 + H_2$ [ギッ

プの装置]と云うのがあって、この実験は階段教室で古曾部先生や松村先生、笹木先生の指導なのです。実験がスムーズに行くようPHを測り溶液をあらかじめ用意し講義に備えるのが私の仕事でした。上手に実験が成功すると小さな胸をホッとさせたものです。

いろんな思い出をくれました。ある時は天守台から蛇を捕らえて来て教卓に入れてか

くしていた所、授業中に穴から出て来たこと、また、ドアに黒板ふきをはさんで開けたとたん頭上に落ちるのを喜んで、生物の時間、蛙の解剖の足をこっそり私の弁当の中に入れられ開けて卒倒し白馬の騎士に医務室へ連れて行ってもらったこと、欠席届を書かされたこと、集会におくれて来てお腹が空いたといつて二十世紀梨をかぶりついていると古曾部先生のスリッパの音であわてて腹痛だと仮病をするなど、本当にいろんなことがありました。

今では時効ですが、なんと面白いこと、それらを弟のいたずらのように私は沢山の秘密を守って来ました。

四年間の勤務生活でしたが、思い出はつきません。今では皆さんおじいさん、そして私はおばあさんです。沢山の人々との出会いがこんなにも心豊かに暮らすことに感謝して居ります。(県女36回・元理科助手)

英語地獄

藤場 常清

白峰村出身の私は深山の残雪を踏んで一人ぼっちで小松中学に入学した。私にとって

英語を習えるということは大変嬉しく誇りでもあった。しかしそんな気持ちはずぐに消えていった。なぜなら私はABCの三文字だけでは知っていたが英語の辞書の引き方も分からず発音記号など見たことでもなかった。ましてや単語を記憶する要領も分らず、もうお手上げだった。しかし授業はどん／＼進んでいき私は落ちこぼれになっていった。先生は庄山先生(あだ名はタイニ)新卒のほやく／＼なので馴れるに従って皆つけに上がって騒いだ。私もその一人であった。

三年になると英語はリーダー、英作文、文法と三つに分れ週五時間あった。その頃になると全く苦痛の種で毎日が英語地獄だった。通知簿は三つ共赤点になった。全教科の平均点が六十点以下になると落第ということを知っていたから、他の教科で点を稼いだ。それで落第を免れて卒業することができた。

その後私が石川師範二部を選んだのは、入試に英語がなかったからである。それに卒業して教職に就くと兵役は二ケ年のところ六ヶ月ですみ、しかも戦争に召集されないこ

短歌

母校を訪ねし折の歌

東 省吾

からたちの棘に流るる血潮あり校舎の土手に結ぶや堅実友を呼び師を敬まひて幾星霜日あし伸びたる校舎の朱色見はるかす白山の峰にかけたるや六十年の夢たどるすべありや講堂の曲り廊下の石畳血潮のたぎる若き日かへる鉄鏝の匂ひ強かる田畦ふみオールを立てて川に向ひぬ崩れたる石垣の蔭もみづれば天守は語らずまぼろしとなる季節風吹き荒れつゝの時のまは洋傘の先を突きたつるのみ枯れ草の伏していねたる姿ありこころ素直に寄りつつゆかむ黒土を無駄には踏まじ下駄の下固き身のまはり春を探しぬ湖見ゆる部屋はよきかな漂へばいざなへるものに親しさ湧きぬ手をふりて人ら分かれを惜しめけり春告ぐる鳥の囀る間にも

日本歌人、同人・選者(中学34回)

とを知ったからである。当時は日支の戦争が厳しくなる真最中であった。

入学してみると三年の時英語で苦しめられた正村先生がおられたが、授業には英語はなかったのやと地獄から解放されのんびり楽しくやっていた。その関係か通知簿は明るかった。今ではこの地獄の体験は懐かしい思い出として蘇ることである。その思い出を抱いて六十幾年過ぎた天

守台を訪ねてみたい。(中学34回)

緑窓変

大杉 幸子

もう少し前まで、家中の窓は柔らかな若葉の緑を透明なガラスの中にはめていた。この緑がしだいに濃く重く、心理的な重圧をもってくるころになると、窓のもつもう一つの意味を思い出す。いわば閉じられるためにある窓の、幾つかの風景を。

エリザベス一世が幽閉されたというロンドン塔の高く暗い壁、そこにはめられた小さな一つの窓。エリザベス一世は後にロンドン塔から解放された唯一の人といわれるが、曇りがちなロンドンの空に見える小さな窓は、姫のかなしみそのもののように思えた。それにも増してイングランド銀行の一つの窓もついでにないシヨッキングな外壁、ミステリアスな沈黙の壁というべきか。イギリス経済の中心、シティーの総本山であってみれば当然かもしれないが、何か怪物めいた重い固まりのようなものが忘れがたい。

いま一つ瀟洒な窓が並ぶパリのアパルトマン。夕ぐれそれぞれ窓に厚いカーテン、丈長いレースのカーテン、暗い窓、明るい窓、ホテルの二階から見る広い中庭の向こうに皆びたりと閉じられて、人は影すら見えない。ひっそりとともるだけのフロアスタンド、あのほの暗い下には現代のジュリアン・ソレルが似合いそうだ。何となく人懐かしいような異国の夜、人の消えた窓々は都市の憂愁を漂わせて、写真のように静止したままであった。

窓は本来風のために、光のためにある。また自然と人と

の相触れんとする仲だちであ
ろう。それを断つべく閉ざさ
れた窓は、ときに暗部を内蔵
しつつ、また忘れがたく心を
とらえる。
(県女25回)

趣味と私

藤原 龍子

初めて同窓会の会報を手
に懐かしく読ませて頂きまし
た。ただ読み耽ったというの
が本音ですが。

『天守台』という会報のお
題を見るなり胸が熱くなりま
した。子供の時には遊ぶ所と
いえは松の木の多い芦城公園、
桜の並木があつて高い所など、
今は何処へ行つてもビルがあ
り高い所は珍しくありません
が……。天守台には三本の松
があつてバックに真っ赤な夕
焼け雲を残し、一日が暮れて
行くその景色は何とも言いよ
うのない美しさでした。

ここ神奈川県大和市に越し
てからも、故郷の天守台は遠
い憧れとして大切に思つてお
ります。昨年の春は山代温泉
雄山閣で級会がありお天気に
も恵まれ、久しぶりに友情を
暖めることができ、幸せな時
を過ごすことができました。

家族四人でこちらへ来てか

ら三十年、私もあのフックラ
としたホッペも何時しか細く
なり、年相応の顔に変身、元
氣だけが取り柄の現在です。

二人の子供は結婚し、主人は
早くあの世に急ぎ、今は一人
で暮らしています。一人だと
いって寂しがつてもいられま
せん。まだまだ長い人生があ
ります。幸いにも良き友人た
ちにも恵まれ、結構楽しい毎
日ですが、今は五十歳より始
めた水泳を、クロールとバタ
フライをマスターし、33分と
ゆつくりですが一キロ泳いで
上がっています。やっぱり私
の一番楽しい時間でですね。

また、油絵を始めて三年。
近頃は少々自信作も出来上が
り子供たちにも残しておきた
いですが、さて、子供たちは
喜んでくれるでしょうか。

場所も狭いですが花や野菜
も沢山作っています。去年は
発泡スチロールの中でクリス
マスツリーのようにフラフラ
に実る紫色の小さなナスを、
近所の方々におすそ分けし、
大変喜ばれました。何事も一
生懸命に、それが私のモットー
です。夢はまだ続きます。
(市女19回)

私のマラソン人生

宮永 正良

私はジョギングを始めて二
十年が経過し、還暦、定年退
職と三つが重なったことを記
念に、珠洲市狼煙から加賀市
までの二百七kmを四日間かけ
て走ることができました。無事完
走することができました。

この計画にあたり、二人の
高校時代の級友にサポートし
ていただき、本当に気持ちよ
く走ることができました。一
人は自動車で四日間の伴走で
あり、一人は宇ノ気町より加
賀市まで足を使つての伴走
です。級友二人には感謝の気
持ちで一杯です。

私が走り始めた動機は、病

弱な妻と小さい二人の子供の
ために、先ず自分が健康で家
庭を支えなければと思つたこ
とが、大きな理由の一つです。
当初は朝五時に起床し、五km
の距離を二十分のペースで毎
日休むことなく、走つていま
した。妻の病気は日増しに悪
くなり、また、子供が大き
なるにつれ金銭面での苦勞も
重なるので、自分を見失いそ
うな日々が続きました。しかし、
走ることが心の支えとして私
を助けてくれたことは事実で
す。

妻は発病以来十五年間病と
闘い、永遠の眠りにつきまし
た。私が心身共に疲れている
時に、中学時代の級友が私を
勇気づけようとジョギングを

始めました。また、昨
年はホノルルマラソンに出場
して、妻と級友の墓前に無事
完走したことを報告しました。
これからも二人のことを忘
れることなく、命ある限りマ
ラソン人生に頑張りたいと思
います。
(高校8回)

俳句

春の水

高林 叶子

石ありて声放ちたる春の水
八重椿わが晩年も見頃にて
野仏のみます落花の吹き溜り
生きるよろこび苺の鮮度確かめて
猫柳撫でる記憶のわが故郷

(県女27回)



写真は珠洲ー加賀マラソン
三日目 J A 経済連前にて
右 宮永正良
左 前坂雅男(8回生級友)

Nさんへの手紙

北尾 和子

— Nさんへ —
 メールありがと。お仕事の傍らトマトやキュウリを作っておられるとか……。羨ましい。市内に住んでいる私の家は鱈の寝床のような地形で日照に限りがあるし、猫の額のような庭。

トマトも豌豆もヒョロヒョロと間延びして失敗。だけど次回豌豆を作る時は陽当たりのいい金木庫の木に逼らせてやろうと思っています。そしてたらきとちょっとしたクリスマスツリーのようになるかも……。ピンクの花はかわいいランプのブーケ。まるまる太ったサヤたちはグリーン系のキャンドル……。

ところで畑仕事の本当のお目当ては健康づくり？世はまさに長寿時代ですものね。ヒトは長い人生を生きるようになります。

今、私の横で長々と寝をべっている白黒の雌猫は「ノラタン」。野良出身なのでそう呼んでいます。もう十八年生きています。蝶や鳥を追っかけてた頃もあったのですが、今は

昔、寄る年波で近頃はボケて突然奇声を発することも。

「ノラタン！」と声をかけてやると、はっと我に返ったようにいつも居眠り加減の目を丸く見開くのです。

娘はそんなノラタンに頬づりしながら「ボケてもいいよ、居るだけでいいよ」と労っています。彼女はノラタンの存在を高く評価しているようです。私がまだらボケになった時？無理だろうなあ……。

片町で長く店を開いているママさんの発言。「定年前はファイトマンだったのに退職した途端にヒトはなぜあつという間に日陰の野菜みたいに萎れてしまうんやろ？……」

確かに定年なんて所詮ヒトが勝手に決めた基準。ノラタンや野菜のような自然には定年なんてありませんものね？自分の生涯を自分流に生きていくのが自然。……こんな庭でもエビネとかヤママルリソウ、ササユリ、ショウウマなどは住み心地が良さそうです。道草を待ち伏せしてる

週末は無口で居たい

魚釣り
 ではまた (高校12回)

橋本斉祐先生を偲ぶ

前田 英夫

橋本斉祐先生の訃報を新聞で知りました。小松高校長を退職された後、悠々自適の生活を送られているとばかり思っていました。残念でありません。

高校三年の時の担任でありました。卒業後先生とはお会いしていません。しかし何故か今までの先生の中で一番印象に残っていますし、恥ずかしながら中学、高校六年間を通じて、担任の名前を言えるのは橋本先生だけなのです。

いつも白衣を着て、長身でかっこよかった当時の面影しか脳裏に残っていません。私の中の橋本先生はいつでも当時のままです。そんな目立つた生徒でもありませんでした(多少無愛おしかったです)。文系志望ということで化学の授業は中途半端だったし、卒業以来お会いしていませんので幾多の教え子の中では先生も名前を忘れられたらと思っ

ています。それでも私の中では強烈な恩師であります。

今、町の教育委員会に身を置いています。多くの先生を

見ています。常に彼らに言っているのは「心に残る先生であれ！」であります。「師」

であってほしいと願っています。今、先生を思うとき、長身の格好良い外見だけでなく、時には生徒と共に感情を交換し、時には師として毅然と引率する、その絶妙の接し方が多感な高校時代の思い出として強く刻み込まれたのではと思

います。井口先生、竹部先生ともお会いする機会があります。余計に今、橋本先生が偲べれます。お声をお聞きする機会を失ったのが残念でなりません。

心からご冥福をお祈りいたします。(高校17回)

生きるに必要な食量

宮 誠而

流通、通信、コンピュータの発達によって、北陸の片田舎という、東京から見れば秘境の地で出版活動ができるようになった。

そんな中から『赤ワインダイエット法』という、不思議な本がで上がって、現在多くの方から賛同を得つつある。

このダイエット法は赤ワインを飲むことによってダイエッ

トができるというものではない。アルコール依存症的肥満体質人間が、アルコールに対するストレスをなくし、生きていくに必要な食量を、本能を目覚めさせることによってコントロールし、ダイエットを可能にするという理論なのである。その手段として赤ワインを少々使うのである。やり方は簡単であるが、理屈はかなり理論的である。

この方法を確立した私は、自分自身はもちろんベスト体重になり、現在もそれを維持している。そして、自分自身が一番驚いていることは、人間が健康に生きていくには、こんなに少ない食量でよかったですのかという事実である。今までの半分程なのである。この方法で日本人全てが毎日食事をしたならば、どれ程の食糧が余ることとなるだろうか。考えただけでも大変なことなのである。それ程人間は食べなくても健康に生きられるのである。むしろ食べ過ぎが日本人を不健康にしていると言っ

ていい。

ダイエットに関心のない方も、是非一読を。(高校19回)

先輩方の力

南 寿樹

十二年前、三年生だった私は、念願の甲子園出場を決め、一球児だった私にとって素晴らしい思い出を心に残すことが出来ました。

しかし、それ以上に強く心に残る思い出が、その前年の県予選での敗退でした。

当時、石川県代表の常連と言えば、星稜、金沢（今もそうですが）でしたが、小松も十分に狙える位置にあり、日々の練習もかなり厳しいものでした。私も二年生で、正位置を頂き、精力的に頑張っていました。当時の三年生は優しく、頼りになる方々で、ミスをした私にも必ず励ましてくれたり、かばってくれたりと目をかけて頂きました。

その年、夏の大会は順調に勝ち上がり、準々決勝で星稜と対戦しました。この試合に意気込む私でしたが、ミスを犯し、結果は、私が最後の打者となる逆転負け。最後まで私になれず、打席から動けぬ私に声をかけてくれたのが、やはり三年生でした。涙声ながらに「最後はいい振りだった」と言われ、顔を上げた時に見た先輩の姿が、翌一年間、私の力の源になりました。

自分の弱さと不甲斐無さの克服を誓って奮闘した翌年、同期の仲間達と共に甲子園の土を踏み、それを喜んで頂いた先輩方の顔が、歳月が過ぎた今も鮮明に脳裏に焼きついている。

野球を通じて、汗や涙を共にした同期の仲間。そして、温かく私を迎え、支えて頂いた先輩方の気持ちを思うと、感謝は決して忘れられない。

(高校39回)

白楊会関東支部

総会便り

平成十年度の総会は、四月十五日 三十四回生、三十五回生の方々のお骨折りにて「こまばエミナス」に四十名余り集まりました。

幹事役を持ち回りで開催しておりました白楊会も、平成十三年で一巡しますので、会員も高齢化する現実をどうしたらいいかという課題が出てきました。本年より出欠のハガキの中に「三つの提案を書き出して、お返事を戴く」という形式にしました。大体

「有志によって継続して行く」とのお返事が多数を占めていました。その報告をした後、この度のアンケートの結果を元に次回の段階の、継続、運営の方法をどうすればいいかという、新しい提案をしたいから来年も皆様のお知恵を拝借したいと申し上げました。

十九回生の中村静栄様の音頭で白楊会の弥栄と会員の健康を願っての「乾杯」をして美味しいお料理に舌鼓を打ちました。

中島栄美子様の独唱「野ばら」を野口美津子様の伴奏があって、本格的な趣でした。会員みんなでの「校歌」斉唱のとき野口様の伴奏があるからと「菩提樹」を歌うことになりましたが、そこは「小松高女」の皆様、さすがに美しいハーモニーとなって、内心どうなることやらと危ぶまれられたらしい伴奏の野口様が、お世辞抜きで誉めてくださって気分の良い会を終えました。

鬼に笑われるかも知れないけれど、来年も健康でまた逢いましょうと再会を期してお別れしました。
(県女27回 北山寛子記)

体育祭表彰式

突然の胴上げに
鈴木校長(前校長)
もびっくり



粟津小学校生徒が

記念館を訪問学習
真剣にメモをとって
いました



文化祭模擬店(焼鳥)

煙たい! 熱い!
でもおいしい!



2年生対象の特別教養講座

大学の先生をお迎えして
の講義に心ははや大学生



過去10年間の合格状況

Table with columns for university names and years from 1989 to 1998. Rows include public universities like 公立大学, 東京都立大, and private universities like 私立大学, 早稲田大, etc.

平成10年3月卒業生の主な進学先

Table showing the main destinations for graduates in March 1998. Columns list private universities (私立大学) and public universities (国立大学).

各界に活躍

小松同窓会会員

今春の叙勲で土井康夫氏(特別会員、昭和五十五年)五十七年度本校学校長として活躍なされました。...

また、春の褒章では山下昇氏(高校3回)が、石川泉洋氏(高校3回)が、石川泉洋氏(高校3回)が、...

形文化財保持者認定の答申が、文部大臣へなされました。おめでとうございます。(尚、前号で事務局より各種表彰等を受けられた方をお知らせ下さいとお願したところ、右記以外にも何人かの会員から情報提供がありました。...

○創立百周年に向けて 募金活動始まる

小松高等学校創立百周年記念日まであと五百日足らずとなった五月末から六月初旬にかけて、同窓会々員二万三千有余名(生存会員)のもとに、百周年記念募金趣意書が發送され、募金活動が本格的にスタート致しました。

昨年十一月から今年三月にかけて、名簿委員の方々により、予備調査していただき、出来るかぎり住所等の変更を行い、五月中旬から下旬に募金・名簿向委員会の合同委員会を開催して、諸準備を整え

た上での発送でありましたが、その翌日から同窓会事務局は電話の応対に追われている有様です。

それも当初は会員物故の心痛むご連絡が多かったのですが六月の中旬になると趣意書の未着、住所変更などのご連絡が増えて来ました。

肝心の寄付金は、郵便局や指定銀行に次々と振り込まれ、ご通知を毎日いただいております。百周年記念の諸事業・行事への深いご理解と力強いご支援が感じられる今日此頃であります。

なお、趣意書の中でも申し上げましたが、ご寄付は出来るだけ年内にお振込いただければ幸いです。

寄付金控除対象の「募金趣意書」を発送

五月吉日付の募金趣意書では、募金目標額を一億円とし、特別事業として完成後、石川県に寄付する記念館改修関係費一億三千万円と、百年史・会員名簿・祝典序曲制作等の記念事業や、式典を始めとする記念行事関係に要する経費七千万円を一括して計上し、寄付のお願いを致しました。ところが、ご寄付いただくなかで寄付金控除の対象とな

るのは金沢国税局長の承認を得た記念館改修という特別記念事業に賛同して、その指定口座に振り込まれた寄付金だけであります。

そこで特別記念事業についての募金趣意書と振込用紙を全会員にご送付することになりました。従ってあとの文書が届く前にご寄付をいただいた方々の中で「寄付金控除等の確認領収書が必要とする旨」○印を記入された方には、同窓会事務局で、確認領収書のご送付など別途ご連絡をすることになっております。

小松同窓会新年会開催

平成十年一月三十日(金)午後六時より小松グラウンドホテルにおいて、平成九年度小松同窓会新年会が開催されました。

北森将聡氏(高校24回)の司会で幕を開け、徳田八十吉会長(高校4回)の挨拶となりました。会長からは来年の創立百周年に向けての会員各位への協力依頼の言葉がありました。また、鈴木英章校長(高校8回)からは、校舎新築に関する展望と、平成9年度の小松高校の現状についての説明がありました。

臨時総会では創立百周年の記念特別事業として記念館の大改修を行い、資料展示室を整備し、これらの資料を収納する収蔵庫を新設すること、併せて内部に「階段教室」を復元したいとの提案が、徳田会長から行われ、拍手多数で承認されました。

また、募金委員長の堀口外茂雄氏(高校8回)からは募金の趣旨説明や趣意書発送についての日程報告等が、名簿委員長の西紀幸氏(高校11回)からは、名簿作成についての今後の具体的な見通しについての説明がありました。

続く懇親会は宮川恒氏(中学26回)の元氣一杯の乾杯の音頭で始まり、総勢二百五十三名の出席者一同終始にこやかな談笑の中、料理とお酒に舌鼓を打ちました。

宴もたけなわの頃、恒例の校歌斉唱が行われました。今回からはテープ伴奏が、本校の田中哲臣音楽教諭(高校24回)の編曲・シンセサイザー演奏によるモダンなリズムに一新されました。特に県女・市女の校歌には本校生の野原夕希さん(現三年生)の独唱も収録されており、両校卒業生も後輩に負けじと若々しい

美声を披露されました。会は伊東清雄氏(中学31回)の潑刺たる万歳三唱で締めくくられ、またの再会と百周年の成功を誓いつつ閉会となりました。

本部だより

◇同窓会報『天守台』第十六号をお届けします。今回は新旧両校舎についての貴重な写真と、旧校舎の象徴的存在でもあった「階段教室」にまつわるエピソードをお二人の会員に提供していただきました。

既に創立百周年記念事業の趣意書が皆さんのお手元に送られているかと思いますが、いよいよ来年に迫った百周年の特別事業として、小松中学創立時の木造校舎(現在は記念館として利用中)の大改修が行われることとなり、その内部に「階段教室」を復元することにいたしました。素晴らしい記念事業となりますよう、会員各位の力を合わせていきましょう。

◇新校舎の建設が本格化してまいりました。平成十年度補正予算で基本設計費が計上されました。二十一世紀の新しい教育環境づくりを考えたフ

第17号の原稿募集

- ◎メ切 平成10年10月31日 自由(在学中の思い出、近況報告、趣味、紀行文、俳句、短歌等)
- ◎字數 六百字程度
- ◎送先 千九二三一八六四六 小松市丸内町二の丸十五 小松高校同窓会事務局宛
- ◎発行 平成11年1月

お知らせ

◇同窓会館内に電話・ファックスが設置されました。お気軽に会員の方々の近況をご連絡ください。

TEL・FAX (〇七六一)二一六三三〇